

千光寺をよりよくし隊

本単元で育成する資質・能力

つながる知識 試行錯誤力 主体性 協働性

1 単元について

○ 本単元で育てたい資質・能力は以下の通りである。

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年告示）総合的な学習の時間の「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次の通り育成することを目指す。」に基づき設定した。

(1) 単元観

本単元は、尾道に古くから残る千光寺を扱い、児童自ら課題を発見し、解決方法を決め、実行するという探究的な学習を行うことを通して、課題に応じた解決方法を身に付けさせ、情報収集の仕方や整理、分析する力を養うとともに、自分や社会とのつながりやかかわりについて考えようとする資質・能力及び態度を育てることを目標として設定したものである。

児童たちは、本年度2学期より千光寺公園内に移動した仮設校舎で学校生活を過ごしている。そのため、仮設校舎周辺に何があるかを知らない児童も多い。千光寺公園は尾道を代表する観光地である。千光寺を教材として扱うことで、児童の興味・関心を高め、千光寺の魅力を発見・発掘・発信することで、地域への愛着を育めば、次年度へと学習が深まっていくと考えられる。地域の将来を担う児童たちにとって、課題発見や課題を解決する学習を通して地域への関心が深まれば、大変意義のある学習であると言える。

学習活動は、課題に応じた解決・地域貢献を図る探究的な学習を行うことを通して、新型コロナウイルスの影響による観光客数減少の問題を取り上げ、児童自ら課題を発見し、学んだ知識や他者の考えを関連付けながら解決方法を見出し解決することで、児童のつながる知識や試行錯誤力、主体性や協働性を育てることをねらいとしている。

(2) 児童観

資質・能力の実態

資質・能力に関する質問紙の結果、以下の実態が見られた。

話し合いで「友達の意見を大切にする」に対して肯定的回答が100%と協働性はあるものの、「自ら意見を出す」には57%、「問題に対していろいろな方法を提案する」には46%と主体性や試行錯誤力には、課題が見られた。

1学期には、地域の小路の魅力を調べ地域住民や観光客の方へ発信した。単元を通して、地域には歴史ある魅力的なものがあることに気づき、そのことをリーフレットにまとめ、発信するための準備・計画を協働的に行うことができた。しかし、課題の解決に対して、対象に応じた表現方法を選択したり、問題に直面したときに解決策を見出したりすることには課題が見られ、アンケートに表れた数値と合致していると考えられる。

(3) 指導観

課題設定では、千光寺に関する資料を提示し、児童が自由に気付きを出し合う中で、新型コロナウイルスの影響で、観光客数やロープウェイの利用者数が減少していることに気付かせ、「千光寺をもっと楽しんでもらうためにできることはないか。」という課題意識を高める。

情報の収集では、課題の解決に必要な情報とそれに応じた収集方法を計画し、実行する。既習の知識や技能をつなげることで、より多くの情報やより確かな情報を収集し、蓄積していく。

整理・分析では、思考ツールを活用しながら、思考の整理を行う。収集した情報を分類し、順序立てることで、今後の活動を円滑に進められるようにしていく。

まとめ・表現では、取組や活動の内容を中間発表会で交流したり、市役所の方に助言をしていただいたりする活動を定期的に行いながら、実行に向けた準備を進めていく。交流する際には、話し合いの視点を明確にし、主体的に意見を出せるようにしていく。また、問題に直面したときに、他者の意見が解決に導くことがあることを実感させていく。さらには、交流後に解決しなかったものに関しては地域の方に協力を仰ぐことで解決につながることも実感させていく。その中で、目的達成のために情報を取捨選択し、分かりやすく表現する力も育てていきたい。

振り返りでは、ルーブリック表を用いて資質・能力について力が付いたことを自己評価し、今後の目標を自己決定する力の向上を図る。

(4) 単元の目標 (めざす児童の姿)

- 地域の千光寺に関する問題や概要を知り、既習の技能を生かして情報の収集や調査を行おうとする。(知識及び技能)
- 探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら解決方法を考え、目的意識をもって情報収集、整理・分析、自己評価するなど、問題を解決する方法を身に付ける。(思考力、判断力、表現力等)
- 地域の千光寺に関する問題の解決方法を考えることを通して、地域の役に立ちたいという思いをもって、主体的、協働的に課題を解決したり、自己の生き方を考えて実践したりしようとする。
- 地域の千光寺に関する問題の解決に向けて、他者と協働することで、よりよい解決方法を創造し実行しようとする。
- 尾道の歴史や地域の人々の生き方を大切にする。(学びに向かう力、人間性等)

2 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
			(主体性)	(協働性)
評価規準	①地域の千光寺に関する問題や今後の課題について概要を知っている。 ②既習の技能を生かして、課題解決に向けた情報収集や調査活動などの活動を行っている。 (つながる知識)	①地域の問題に気付いて学習課題を設定するとともに、解決に必要な方法や手順を考え見通しをもって学習計画を立てている。 ②様々な資料や聞き取りなどを活用して適切に情報を収集し、収集した情報を目的に応じて整理している。 ③収集した情報を比較したり、分類したり、順序立てたりして考えをもち、自分たちの今後の活動に生かしている。 ④伝えたいことの内容を考慮して表現し、自他の発表を比べながら聞いている。 ⑤ルーブリックに基づいて自己評価し、次の目標を書いている。 (試行錯誤力)	①地域の千光寺に関する学習課題に対して関心を持ち、進んで学習計画を立てようとしている。 ②地域の問題解決のために進んでアイデアを創造し、よりよい取組や活動になるように、内容や方法の改善を図りながら、課題の解決に取り組もうとしている。 ③これからの自分の生き方について考え、生活に生かしたいことを考えようとしている。	④他の人の意見も取り入れ、よりよい方法や内容の改善を図り、課題の解決に取り組もうとしている。

3 単元における育成を目指す資質・能力ルーブリック

	C	B	A
つなげる知識	千光寺について、調べて分かったことや、考えたことを書いたり話したりできなかった。	千光寺について、調べたことや分かったことの似ていることや違うことを見付けることができた。	千光寺について、調べたことや分かったことの似ていることや違うことを見付け、これまでの学習とつなげることができた。
試行錯誤力	問題を見付けたり解決する方法を見付けたりすることができなかった。	問題を見付け、解決する方法を見付けたり、助けてくれる人をさがしたりすることができた。	問題を見付け、どうすれば解決するか、より良い方法を見付けることができた。
主体性	話合いで発言したり活動に取り組んだりすることができなかった。	自分から進んで意見を言ったり、行動したりすることができた。	自分から進んで問題点を見付けたり、解決する方法を提案したりすることができた。
協働性	友達と協力することができなかった。	友達のことを思いやって話したり行動したりすることができた。	協力することを通して、友達の新たな良いところを見付けることができた。

4 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本単元においては、地域の千光寺に関する問題を題材として取り上げ、地域に住む人々とのかかわりを通して地域の千光寺に関する問題に気づき、解決方法を創造して実行する活動を中心とした単元を構成することで、児童の主体的な課題発見・解決学習を支援する。これらのことを通して、地域の千光寺に関する現状と人々の願いについての理解(つながる知識)を深め、情報収集や整理・分析、振り返りなどを繰り返しながら(試行錯誤力)探究活動に慣れることで課題発見・解決力(つながる知識)を育成する。また、友達と協力しながら納得解を導きながら、地域のために役に立ちたいという思いを抱かせることで主体的に学習に取り組む態度(主体性・協働性)を育成する。

5 指導と評価の計画 (全41時間)

小単元名 (時数)	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法	教科との関連 (活用・発揮)
<p>課題の設定</p> <p>千光寺をもっと楽しんでもらうためにわたしたちにできることって何だろう？ (5)</p>	<p>自分たちができる取組や活動はないだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 千光寺に関する資料を基に、千光寺について知っていることを話し合い、課題意識をもつ。 自分たちの気付きや疑問から課題を設定し、学習計画を立てる。 	①	①	①	ワークシート 振り返りシート 発言 行動観察	社会科 【古くから伝わるもの】 ・県内の文化財の様子を捉え、地域の人々の様々な願いが込められていることを理解し、文化の保存や継承に関わって、自分たちにできることを考える。 国語科 【グループにまとめて整理しよう】 ・目的に応じて意見を取捨選択し、明確にする。
<p>情報の収集</p> <p>千光寺をもっと楽しんでもらうために4年生ができそうな取組や活動を考えよう。 (8)</p>	<p>千光寺を楽しんでもらうための活動や取組について、どのような内容や方法で収集すればよいだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報収集の目的や内容、方法を明確にする。 千光寺を楽しんでもらうための活動や取組につながる情報を収集する。 自分たちでできそうなことについて収集した情報を根拠に考えを交流する。 	②	②	④	ワークシート 振り返りシート 発言 行動観察	国語科 【たしかめながら話を聞こう】 ・話の内容を確かめながらメモをする。
<p>整理・分析</p> <p>千光寺を楽しんでもらうために、4年生だからこそできる取組や活動を決めよう！ (12) 本時32/41 (10/12)</p>	<p>収集した情報を基に、千光寺を楽しんでもらうために、実際に実行できることは何だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 収集した情報を根拠に、自分たちで取組や活動をするための計画書を作る。 自分たちで計画した取組や活動を分析する。 自分たちの計画書を市役所の観光課の方に見ていただいたり、中間発表会を開いて友達に見てもらったりして、内容を改善する。 改善された取組や活動の中から目的に合い、自分たちで納得できるものを選び、決定する。 	①	③	②	ワークシート 振り返りシート 発言 行動観察	国語科 【言葉で考えを伝える】 ・相手に伝えるために大切なことを確かめ、文章を書く。

<p>まとめ・表現</p> <p>千光寺を楽しんでもらえる活動や取組を実行しよう！ (13)</p>	<p>千光寺を楽しんでもらうための取組や活動は地域のためになるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 千光寺を楽しんでもらえる取組や活動に向けて、他者と協力して準備し、実行する。 地域の詳しい方に協力していただきながら、自分たちの取組や活動を進める。 市役所の観光課の方に、自分たちの取組や活動を報告し、お礼を伝える。 実行後、自分たちの取組や活動が千光寺を楽しんでもらえるものだったのか考える。 	<p>国語科</p> <p>【お願いやお礼の手紙を書こう】</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手や目的に応じて書く事柄や言葉の使い方を考え、お礼の手紙を書く。 <p>国語科</p> <p>【調べたことをほうこくしよう】</p> <ul style="list-style-type: none"> 分析した結果をもとに、伝えるための内容の工夫をする。
<p>振り返り</p> <p>千光寺を楽しんでもらうための活動を振り返り、これからの自分の生き方を考えよう。(3)</p>	<p>これからの自分たちは、地域とどのようにかわり、過ごしていくことが大切なのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元で身に付いた力と学び方を振り返り、自分の生き方を考える。 	<p>国語科</p> <p>【言葉のタイムカプセル】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の成長を振り返り、学習したことを生かして自分の思いを書くことができる。

6 本時の展開 (32 / 41)

(1) 本時の目標

中間発表会から、各グループの良い点や改善点について意見交換を行い、今後の活動に生かすことができる。

(2) 観点別評価規準

収集した情報を比較したり、分類したり、順序立てたりしながら根拠を明確にして考えを表現し、自分たちの今後の活動に生かしている。

【思・判・表】

中間発表会を受けて、友達の意見を取捨選択しながら改善案を考えている。【協働性】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 予想される児童の反応
1 これまでの学習を想起する。	○ 自分たちの発表について確認と交流を行い、前時までの学習を振り返らせる。	学級みんなに活動内容を共有して、困っていることをみんなで解決しようとしていたね。
2 めあてを設定する。	○ 本時で何を学ぶのか全体で確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">中間発表会をし、みんなの取組の良い点や改善点を話し合い、これからの活動に生かそう。</div>	
3 見通しをもつ。	○ 発表の視点を確認する。 ・どこまで進んでいるか。 ・今困っていることやこれから困りそうなこと ◆ 本時でどんな力を付けたいかルーブリック表を見て確認させる。 ・試行錯誤力 ・協働性	困ったときには、誰かの助言や協力があれば、問題が解決できそうさ。
4 個人で考える。	○ 個人のタブレットで、各班の発表スライドを見合う。 ◆ 発表を聞く前に、内容をだまかに把握する。また、工夫している点や疑問点をもった状態で発表に備える。	友だちの意見を取り入れて、活動内容を改善することができそうさ。
5 全体で考える。	○ 電子黒板に各グループのスライド資料を提示し、中間発表会を行う。 ○ 話し合いの視点を提示し、意見を交流する。 ・目的を達成できるか。 ・継続して取組めるか。 ・実現可能か。 ・どうすれば解決できそうか。 (誰に聞けば解決できそうか。)	僕たちの班と同じようなものを作ろうとしているね。作り方や道具は一緒に共有できそう。
6 グループで考える。	○ 全体で話し合ったことを基に、再度各グループで計画書を練り直す。	中間発表会を受けて、友達の見解を取捨選択しながら改善案を考えている。
7 まとめる。	○ 見直した計画書をもとに、これからの取組について交流する。 ・これからの取組について (思考ツール：ステップチャート) ・それでも解決できなかったこと ○ 技術員の先生や地域の方に助けをを求めることを助言する。	【協働性】 収集した情報を比較したり、分類したり、順序立てたりしながら根拠を明確にして考えを表現し、自分たちの今後の活動に生かしている。
8 振り返る。	○ 今日の授業でどんな力が付いたか、考えの変容や友達と意見を交流する良さなどをルーブリック表に書かせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;">中間発表会を行うことで、他のグループの取組について詳しく知ることができました。また、他のグループと似ている内容であれば、協力することができると分かりました。それに、困っていることを伝えることで、自分たちでは解決できなかったことをみんなの力を借りれば解決できることも分かりました。また、それでも解決できなかった場合には、地域の方に助けを求めて、取組を実現していきたいです。</div>	【思・判・表】

